

ヘッドシェル・カートリッジ・リード線の細々した問題

アナログディスクの再生では細々した問題が噴出します。

それは個別の製品の性能的な問題というより、個別の製品を組み合わせる際の「取り合い（インターフェース）」に関するものです。

ここでは取り敢えず、ヘッドシェルとカートリッジ、ヘッドシェルとリード線、カートリッジとリード線の問題を取り上げます。

1 ヘッドシェルとカートリッジ

(1) ヘッドシェルとカートリッジが一体型の場合：

オルトフォン SPU Mono Cartridge (SPU Mono G MKII)などがそうですが、この場合は特に問題は生じません。

注意しなければならないことは「重量」だけです。

電気的なインターフェースは、通常のイコライザーであれば何とかあります。

(2) ヘッドシェルがオーディオテクニカの MG-10、AT-LH(13, 15, 18)のような場合：

このタイプのヘッドシェルは、ヘッドシェル上面に穴の類がありません。

裏面にビスをねじ込む穴が数箇所あり、そこへカートリッジを下からビスで固定します。

この点はデノン 103 系のカートリッジでは全く問題無いのですが、オルトフォンの Windfeld のようにカートリッジ上面に取り付けネジ穴がある場合はダメです。

アキュフェーズ AC-5 の場合も、カートリッジの穴は単なる穴ではなくネジ穴なので、たぶんこのタイプのヘッドシェルには固定出来ません。

(3) ヘッドシェルに単に取付用の穴が開いている場合：

オルトフォン LH-6000 がこのタイプです。デノンのプレーヤー DP-A100 に付属しているヘッドシェルもこの類です。

余談ですが、両者の穴の左右の間隔は全く同じで 23mm ということは不思議な印象です。

このタイプが一番「汎用性」がありそうです。

ただし、オルトフォン Windfeld、アキュフェーズ AC-5 の場合、ヘッドシェル上面側から（ヘッドシェル付属の）ビス 1 本でカートリッジを固定しますが、デノンの 103 系(DL-A100 を含む)はビス&ナットで固定します。

DP-A100 の取説によると、DL-A100 をヘッドシェルの上面側が「ナット」になるように、しかも付属のナイロン・ワッシャをかませて固定するように指示があります。しかし、デノン DL-103R をオルトフォン LH-6000 に取付ける際、そうはいきません。ナットからビスがはみ出してしまいます。この違いは一体何なのでしょう？ 分かりません。

(4) カートリッジをヘッドシェルに固定するビス用のネジ回し

たまたまヘッドシェルはオルトフォン LH-6000（真鍮ビス付属）を使用しましたが、オルトフォンのカートリッジ Windfeld にネジ回しが付属していましたので、これを使ってピッタリでしたが、一般的なドライバーをお使いの場合はビスとネジ回しのマッチングに注意された方がいいと思います。

2 ヘッドシェルとリード線、カートリッジとリード線

これはヘッドシェルのピンの直径、カートリッジのピンの直径にリード線の端子が対応出来るか？という問題です。

実測ですと：

オルトフォン LH-6000 のピンの直径：	0.9mm
デノン DL-103R のピンの直径：	1.0mm
アキュフェーズ AC-5 のピンの直径：	1.2mm

となります。

オルトフォン LH-6000 に付属している細いリード線の端子は断面が三角形のおむすび型で、三角形の頂点の部分に切れ目（スリット）が入っています。

これですと、太いピンに挿し込んだ場合、端子は広がりますが、接触力は保持されます。しかし、円筒形の端子に切れ目（スリット）が入っている場合、これを太いピンに無理やり挿し込みますと、端子は広がって接触力を失います。こんな点も要注意です。

「細かい問題点」、以上はほんの一例だろうと思われま。

アナログディスクプレーヤーのアーム、アーム内の配線、プレーヤーとしての端子、勿論ターンテーブル周り、プレーヤー全体としての振動対策、etc. 問題山積ですね（苦笑）。加えて、オペレーションの技術、とりわけ大事なレコードへの針の落とし方などは「勘」「経験」「努力」です。バスッと一発で溝へ落とせれば最高！ 外周側へ落とすとレコード針が内側へ滑走します。